

戦争中の住まい…石川県七尾市石崎町東三区 三島市遺族会 田中芳夫

一 戦争中の避難

住む家の前に防空壕を掘ったこと。祖父と伯父が協力して完成させた。避難に間に合うときはお寺の近くにある防空壕や各所の防空壕など町の人が身を隠す場所まで避難した。

戦争中、空襲警報、B29爆撃機が飛来する爆音で一斉に防空壕に避難、弟は母に、私は叔母に背負われて避難したの覚えている。

米軍のB29爆撃機が飛来し、バー、バー、グォー、グォーと音を立てて通過するのを見守っていたのが子供心に今も記憶によみがえる。

一 戦地に行く前の遺書と本人の爪や髪の毛等について

父は戦地に行く前に「爪と髪の毛」、それに「遺書」を自宅に残していった。

戦後祖母の指示で墓地に納めた。

一 伯母の慰問、祖父の慰問

○ 伯母が父の兵舎に慰問に行った際

差し入れしたが、差し入れ物をおおやけに食べれない状態だったようで、非常に悔やんでいた。

○ 祖父が叔父の慰問に行った際

兵舎に入営している時、叔父の好物を差し入れに行った際、叔父がその物をトイレに持って行き、トイレで食べたと終戦後何回となく聞かされた。

一 食糧不足の補給のため街では各所を耕し農地の拡大を図る。

国鉄に父が勤務していた関係で、近くの線路脇を借りて畑として利用した。また祖父母は山を切り開き500坪を畑にしている、100坪ぐらいずつ兄弟に貸して耕作していた。

一 戦後間もなくの頃、七尾湾口に戦争中米軍が設置した魚雷に漁船が触れて沈没

燃料の油と一緒に獲った魚も流され、回収した魚を安く販売したのを行商していた祖母が購入し食べたことがある。魚は油臭い味がした。

魚を安く販売・・・油臭くなった魚を洗い食べた。

祖父の話では、戦争中船が七尾湾に退避し、船の看板に木の葉をカモフラージュして避難してきたのをよく見かけたようです。

一 遺族年金の件

○ 私の件

私が小学校二年生のとき母が再婚したので遺族年金がもらえず、やむなく祖父母の家に引き取られて生活することとなった。

○ 従妹の主人の高橋忠征さんも同じ境遇でした。

このように遺族年金が停止した方も多かったと思われる。

一 特別弔慰金の件・・・名前は高橋忠征さん（新潟県出身）

本人は特別弔慰金があることさえ知らずに戦後を送ってきた。私が遺族者であることを知り、本人が五年前に初めて申請して受給した。その後、本人が病死したので一回しか受けられなかった。非常に残念だった。何らかの形で戸籍をたどり知らせる方法があればと思う。

一 小学校校庭に食糧不足で一面をさつま芋畑とし使用していた。

生徒が行き来する幅を残し他はすべて芋畑だった。

一 小学生に衛生状態の悪化と栄養不足から皮膚病がまん延していた。

特に頭上がおできだらけとなり（現在のアトピー性皮膚炎の様）なかなか治らなかった。皆、金銭面で貧しくて、衛生面は銭湯に時々しか行けない状態だった。

一 報恩講の開催

街の青年会では毎年報恩講を開催し、町内の方が持ち回りで民家に集まりお参りをしてくれていて、現在も続いています。このとき、町内の戦死者の遺影を集めて飾り、慰霊の供養をしてくれている。

一 街の戦没者慰霊碑

お寺の境内には戦没者慰霊碑が立っている。

戦後何年か経過し、戦争に召集されたが戦地で行方知らずになり、その後戦死が判明した方が20数名、慰霊碑に追加し刻まれた方がある。